

聖書箇所:創世記1章1~3節  
『はじめに神が』

【1】はじめに神が…

- ・「はじめに…」は、何のはじめか？
  - 人間の側から見たはじめ
  - 神は「はじめ」の前から存在しておられた事実(ヨハ1:1)
- ・「天と地を創造された」
  - 「天と地」の両極を通して、神の創造全体を表現
- ・明確な意思と目的を持って創られた私たち  
「すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方にあつて私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。」(エペ1:4)

【2】地は茫漠として…

- ・地は茫漠として何もなかった
  - 「何も絵が描かれていない『白いキャンバス』とか、ドラマの幕が開いた時の『背景』でまだ何も起こっていないような状況<sup>1</sup>」
- ・大水の面の上にあった闇
  - 私たちが生きられる場所ではなかった
  - 災いを意味する「闇」「大水」
- ・その水の面を動いていた神の霊
  - 何も見出せないような絶望的な『地』に臨在しておられた神
  - 「闇と大水」に包まれ希望が見出せない『地』を支配下に置かれた神
- ・人間が生きるための『地』の創造

【3】光、あれ

- ・『光、あれ。』:神のことばによってはじまった世界
- ・神が「良しと見られた」(1:4) 世界なのに痛み苦しみがある理由
- ・光を創造された神
  - 私たちの心の闇にも「光」を輝かせてくださる神

▷私たちは自分の知恵や力、努力によって「闇」を消し去ることはできません。しかし「光、あれ」と仰せられたお方によって、私たちは光の子とされるのです(IIコリト 4:6)。



<sup>1</sup> 新日本聖書刊行会編「聖書翻訳を語る『新改訳 2017』何を、どう変えたのか」